

KSKPなまえの会ニュース

こずえのあき

梢 秋号

2020・9



弁財天 中沢三代作

1984年8月20日第三種郵便承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行定価50円

ギャラリー・手づくりの店サヤ
(なまえの会作業所)

西宮市今津山中町7-22

☎0798-34-2039

(阪神・阪急今津駅東8分)

阪神久寿川駅北西3分)



分けるも
分けるも
青い山
山頭大

★ 表紙について

企画展をお知らせできない今回のニュースです。そのことへの思いを込めて、豊穡と表現の女神「弁財天」に来てもらいました。作者は中沢三代さんです。そして俳句は種田山頭火、漂泊、旅への誘い、夏の山々の青さ、たまらなく郷愁を感じさせてくれます。旅する自由を願って……

なまえの会作業所（ギャラリー手作りの店サヤ）の 2020 年 3 月～8 月

＝新型コロナウイルス感染症流行の日々＝

2020 年、中国から始まった新型コロナウイルス感染症はまたたくまに世界中に広がりました。あっというまに世界の様子が変わり、世界中の人々は皆同じ不安を持つことになりました。もちろん日本も例外ではありません。この感染症の流行は人が社会というものを形成していくうえに、絶対的に必要な「集う」ということを否定するものです。また「移動」や「表現」も同様で、これは人の「在り方」まで影響がおよび不安がつのります。そして8月の今も変わることはありません。

そしてこの「大波」は私たちのこの小さな存在である作業所までやってきました。まずは作業所として、メンバーの生活を守れるのか、緊急事態宣言が出される中、休所要請が出るのではないかと心配しましたが、そこは国や県もできるだけ開所という方針が出たため、メンバー個々の状況にあわせながら普段の生活を続けることができました。

しかし、なまえの会作業所にとって大きな幹である「地域に開かれた作業所」としての「表現の場」には大きな影響が出ました。3月に予定してニュースでもお知らせしていた、いろけんさんのモビール展、展示の準備も具体的になっていた時、コロナ流行の兆しが見られ始め、いろけんさんが中止の提案をしてくださいました。まだそこまでの危機感は生まれていなかった時期でしたが、作業所としての性格上、早めの決断は賢明であったと思います。いろけんさんに感謝です。急ぎホームページで中止のお知らせをしましたが、皆さまへのお知らせの手立てがなく、ご迷惑をかけることを心配しました。ただ展示予定期間に急激に感染が広がり、逆にほっと胸をなでおろしたものでした。

毎年夏に開催している「サヤ音楽の集い」についても昨年から西宮市甲東ホールへと会場を移し盛況であったため、今年度も年明け早々から準備を始め、7月30日に日程をとることができました。出演者は、企画展からつながり2016年6月に出ていただいた「アンサンブル楽」さんをお願いし、フルート演奏を中心に、クラシック音楽の世界に親しみ、楽しもうというコンサートを企画していました。日程的にもまだ余裕があり予防対策をとって、なんとか開催できるのではと考えていましたが、緊急事態宣言が延長され、「自粛」はさらに強化、「人との接触を8割減らしてほしい」という現実をつき

つけられました。「心から皆さんにきてほしい」とよびかけることができないなら、「表現の場」を作業所を活かす場であるにとらえている、私たちの「音楽の集い」は開催できないと、中止を決めました。早くから準備をしてくださっていたアンサンブル楽さんには、ほんとうに申し訳なく思います。アンサンブル楽さんは、ボランティアで、演奏活動をすすめておられるグループです。このコロナ禍では、活動も厳しく皆さんの苦悩も大きいことと思います。この現状では次への希望をやすやすとは語れません。リモートやオンライン配信とは方向の違う気がする私たちの「表現の場」はどうなっていくのか。今はまだ「途方にくれている」ままです。ただいろけんさんのモバイル展アンサンブル楽さんのコンサート、あきらめていません。今後必ず開催できることを願ってやみません。どうぞよろしくお願いします。



いろけんさんモバイル



アンサンブル楽の皆さん

＝なまえの会ニュースを読んでくださっている皆様へのお知らせとお願い＝

この間の経過でも述べましたが、今回の新型コロナウイルス感染症の流行により、企画展やサヤcinemaつ茶、「サヤ音楽の集い」を、中止せざるを得ない事態となりました。そのことにより、サヤに積極的にお客さんに来ていただくということができなくなりました。また定期的に行われている、地域のバザーもすべて中止となり、サヤメンバーががんばって刺しゅうをしている作品の販路が途絶えてしまいました。

ただ、そんな時、不織布マスクが圧倒的に品不足になり、手作り布マスクが必要になるのではということで、スタッフが布マスクを作ろうと提案してくれました。そこでサヤの個性を活かすという特徴をふまえて、マスクも色々なプリント柄を使った一品ものに近いものを作りました。しかしもう材料不足が始まっていて、内側のガーゼやゴムを手に入れるのに思わぬ苦労がありましたがなんとか今も作り続けています。マスク不足の時は、ほんとに困った方が多く、外に出している看板を見て、かけこんでくるお客さんや口コミで来てくれる方もありました。

そんなことでマスクは売れるのですが、毎日の作業で生み出されるサヤメンバーの刺しゅう製品や、本来のサヤの製作品の販路は閉ざされた状態が続いています。この状態はおそらく当分の間変わらないと思われます。それではどうすればいいのか。毎日ががんばって

なことです。そこでニュースによって皆さんの力をお借りしたいと考えました。4 月発行のニュースが出せず、今回やっと経過報告という形でこのニュースを出したのですが、そこで通信販売をさせていただくことにしました。サヤの製品は現品一点物が多く、同じ製品が作りにくいということで、ニュース上では製品の紹介だけをしていましたが、なんとか工夫をして、今回初めてチラシを作りました。そのチラシを見て、皆さんにぜひサヤの製品を注文していただきたいと思っています。一点物が多い製品については、別にカタログも作っていますので、ぜひそちらも申し込んでいただきたいです。注文方法などいろいろお手間をかけますが、よろしくお願いします。今まで、サヤまで来ていただかないと手にとっていただけなかったメンバーの手仕事をお届けすることができる新たな機会となるものとして、前向きにとらえていきたいと思っています。ピンチをチャンスへ！この取組みが「希望」となりますよう、皆さまの暖かいご協力をお願いいたします。

チラシ掲載製品の説明をします！

★必ず読んでくださいね！

A 刺し子ししゅうふきん

さらし布 サイズ 縦 35 cm × 横 40 cm さらにで裏打ちしています。1 枚 600 円 送料 1 枚 100 円

- ◎サヤのメンバーが刺しゅうをしています。サヤの代表的な製品です。さらしに刺し子糸で刺しゅうをしているので、洗濯もだいじょうぶです。飾りふきんやお手拭にも使ってください。ちょっとした贈り物としても好評です。
- ◎チラシの製品は、ある程度量産ができます。作り手が複数いるので、色や刺し方が少し変わる場合があります。
- ◎チラシ掲載以外に、いろいろな図柄の刺し子ふきんがたくさんあります。一点ものの作品です。ふきんのカタログを別に作っているので、ぜひ見てください。FAX 申込書に申し込み欄がありますので、記入していただければ、カタログを送ります。お電話でもうけたまわります。

B 刺し子ししゅうコースター

木綿シーチング 生成り 10 cm × 10 cm 裏地はプリント地 1 枚 300 円 送料 1~5 枚 100 円

- ◎毎年、多数作っている、これも代表製品です。掲載製品は量産できます。裏はかわいいプリント地で、表、裏両面使えます。

C 文庫カバー

木綿シーチング 生成り 厚い文庫本にも適応します
600 円 送料 100 円

◎掲載製品は量産できます。裏面にも刺しゅうをしています。内側の布はプリント布です。押さえのリボンもついています。

D 動物コースター

木綿 プリント地 縦 13 cm×横 12 cm
1 枚 400 円 送料 1~3 枚 100 円

◎いぬ、ねこは量産できます。顔の目、口などは刺しゅうです。他 ウサギ、ふくろうも注文いただけます。服の色、模様などはおまかせになります。

E 刺しゅうポーチ

麻混木綿 大縦 16 cm×横 20 cm マチ 4 cm 1600 円 細長
縦 10 cm×横 20 cm マチ 3 cm 1000 円 小縦 10 cm×横
12 cm マチなし 700 円 送料 大 150 円 細長・小 100

◎掲載製品は現品限りの一点物です。サヤには他の製品が多数あります。すべて一点物になりますが、ポーチのカタログを作成しています。よろしければ申し込んでいただければ、カタログをお送りします。

F カードケース

サイズ横 14.5 cm×縦 11 cm マチ 1 cm
カード 11 枚収納 1000 円 送料 150 円

◎内側にカード収納ケースがあり、縦にカードを入れます。掲載製品は量産できますが、カード収納ケースの布合わせはおまかせになります。

G 鍋つかみパオ

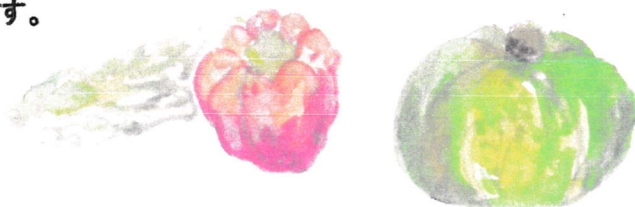
木綿 サイズ高さ 10 cm 直径 10 cm
1 個 600 円 2 個 1100 円 送料 1 個 150 円

◎刺しゅうは小さなお花です。内側はキルティングです。量産できますがプリント柄については、布柄はおまかせになります。2 個セットの場合組合わせは自由です。

H 手作りカバン

木綿プリント カバン小 縦 23 cm (手持ち含まず)
横 25 cm 1800 円 カバン大 縦 24 cm (持ち手は含
まず) 横 33 cm 底マチ 10 cm 刺しゅうあり 3500 円
送料 400 円

◎掲載製品は現品限りの一点物です。サヤに他にもいろいろな手作りカバンがあります。すべて一点物ですが、カタログを作っていますので、よろしければ申し込んでいただければカタログをお送りします。



特手作り布マスク・マスクケース

マスク	男性用 500 円	女性用 450 円
	小学生 250 円	幼児 250 円
マスクケース	500 円	送料 100 円

◎ちらしには掲載していませんが布マスクも作っています。いろいろな図柄の布を使っているため、同じ図柄のものを数多くは用意ができません。柄はおまかせということになります。よろしければ注文してください。マスクケースも同様です。

マスク ①色柄がシック系 ②色柄が鮮やか系 で選んでください。

小学生用 幼児用はすべておまかせでお願いします。

マスクケース ①刺しゅう入り ②プリント柄 で選んでください。

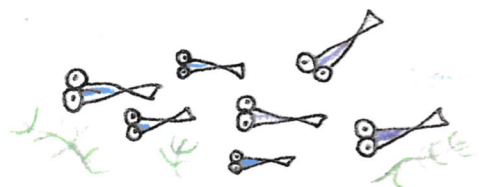


マスク

マスクケース

ご注文への流れ

- ① 電話またはFAXでご注文してください。チラシと共に挿し込んでいるFAX注文書をご利用ください。Tel・Fax 0798-34-2039 (ギャラリーサヤ・なまえの会作業所)
- ② なまえの会作業所から、お電話かFAXにて商品代金と送料を合計した金額をお知らせします。これで注文完了といたします。(注文内容の変更、キャンセルの場合は電話でお知らせください)



③ お支払方法について 商品代金と送料を合計した額を先払いしてください。

★現金払いの場合 なまえの会作業所をお願いします。

★振込の場合 同封している赤い郵便振替票で振り込んでください。(振込手数料はいりません。) 振替票がない場合は ゆうちょ銀行
郵便振替口座 00930-9-2543749 に振り込んでください。(手数料の負担をお願いします)([↑]なまえの会)

④ 注文完了から1週間以内にご入金をお願いします。

⑤ 入金確認後、製品の発送をさせていただきます。手作り品のため1～3週間の余裕を
いただかせてください。さらに時間がかかる場合はご連絡をさしあげます。

入金後のキャンセルはご遠慮いただきますようにお願いします。返品も原則お受けい
たしませんのでよろしくお願いします。

★送料について 送料については、各品ごとに設定しています。ご負担をかけますが
よろしくお願いします。

A 刺し子ししゅうふきん 1枚 100円 2枚 150円 5枚 300円

B 刺し子ししゅうコースター 1枚～5枚まで 100円

C 文庫カバー 1枚 100円

D 動物コースター 1枚 100円

E 刺しゅうポーチ 大 150円 細長・小 100円

F カードケース 1個 150円

G 鍋つかみパオ 1個 150円

H 手作りカバン 1個 400円

特 マスク・マスクケース 1個 100円

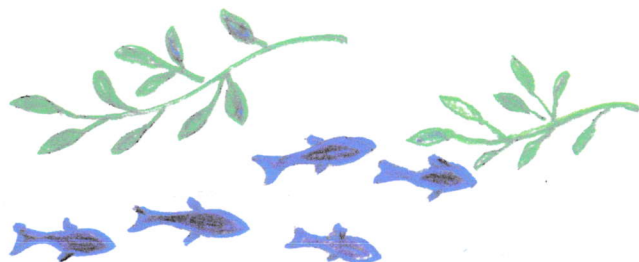
◎複数注文などの場合の送料については、注文後の確認時にお知らせします。

★製品の詳細、送料その他のお問い合わせは、なまえの会作業所（ギャラリー手作りの
店サヤ）をお願いします。 Tel・Fax 0798-34-2039 (月～金 AM10:00～PM5:
00)

★ サヤホームページも
見てください

なまえの会作業所 願

なまえの会作業所 WIX.COM



住田理恵さんから見た津久井やまゆり園事件

2016年7月26日相模原市にある「津久井やまゆり園」で入所者19人が殺害され入所者・職員26人が重軽傷を負わされた。加害者は元職員の植松聖（当時26歳）逮捕時から障害を持つ人に対して信じがたい「差別発言」を繰り返してきました。そして2020年3月16日求刑どおりの「死刑判決」が言い渡され、弁護人側が控訴したが、植松被告本人が30日に控訴を取り下げ、一審での判決による「死刑」が確定しました。

住田理恵さんは2017年5月に企画展示をしていただきました。2月に裁判の傍聴に行かれていたことを知り、なまえの会ニュースへの原稿をお願いしました。2回にわけて連載の予定でしたが、ニュース発行が遅くなり、今回一括で掲載させていただきます。

『住田理恵から見た津久井やまゆり園事件』

こんにちは~

3年前に なまえの会作業所で個展をさせていただきました、理恵凸凹です。

資料をみて三年前だとわかりました。そんなに前だったんですね、ついこの間のような気がしています。

個展の際はお世話になりました。ありがとうございます。

また今回は津久井やまゆり事件の記事の依頼、ありがとうございます。私なりにになりますが、一生懸命書きたいと思います。この事件のことを風化させたくない　！こんな事件が起こらない社会にしたい！そのために

みなさんどうお過ごしでしょうか。

私はコロナウイルスにかかってしまうのでは、かかったらどうなるのか、不安のあまり一度だけ初めて過呼吸になりました。旦那も喘息があったり肺がもともと強くないので二人で怖いなあと感じていました。

そうではない時は、テレビを見て笑ったりホットケーキミックスでケーキを作り食べたり、がんばって楽しもうとしています。

どこか外に出ていくのではなく、家の中から、こんな時だからこそ、私にできる事を必死に考え始めました。

そして出たことのひとつが、前からの夢だった youtube デビューするのを本気で取り組み始めました。2、3年前から私の作品を youtube にアップしたくさんな人に見てもらいたい、との願いがあったのですが、今回とうとう youtube にアップすることができました。

youtube デビューです♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 確かなのはコロナウイルスで、家にいる時間が長いので、向き合えたと思っている。 気分転換にぜひぜひ聞いてね。

住田理恵 youtube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCIpWRUsI_ETNf3KKWK6KAVA

※「住田理恵 youtube」で検索しても出てきます。

100 チャンネル登録めざしています。チャンネル登録してもらえたら嬉しいです。

★住田理恵さんプロフィール

1974 年 生まれ

小・中は普通校に通う

1990 年 尼崎養護学校高等部入学

(絵を好きになる)

1995 年 一年間ひきこもり

1998 年 ピアカウンセリング受講

2008 年 住田雅清さんと結婚

2011 年 演劇に出会い、舞台に立つ

2013 年から、各地で個展開催

[住田理恵から見た津久井やまゆり園事件]

(その1)

2016 年の 7 月 26 日の夜相模原市にある知的障害者の施設で 19 人の命を奪い、24 人の身体と心を傷つけた植松聖

植松くんが衆議院議長に犯行の理由 手紙を書いていたのがネットに上がっていたので私は差別的な言葉がいっぱい書いてあり苦しかったのですが、最後まで読みました。そこに書いてあった、殺害の理由 心のない人たち 障害者は不幸しか生み出さない 生産性のない人たち 国のために僕が殺してあげる！でした

●ふざけるな～

●命大切にしろ お前の命もな

●植松くんが思っていたこと社会の人たちも思ってるんちゃうん

●障害者を軽く見るな

植松くんが本当のところなぜそんな考えに至ったのか？知りたい！知らなければならぬ！と思っている

この事件を風化させてはいけない！！

次の植松くんを生み出さないために風化させてはいけない！！ 次の植松くんを生み出さないために知らなければならない！！

この事件を沢山の人が言い伝えていくことになると思っているが、私もその 1 人になってくたて 1 月 8 日の初公判と 3 月 16 日の結審の傍聴に横浜まで住田雅清さんに行ってきました。

KSKP なまえの会ニュース第3種郵便物承認 通巻 11723 号 2020 年 8 月 31 日 (10)
事件のあった津久井やまゆり園では、意志決定支援というのを取り組みはじめたようです。

植松くんだけが特別ではなく多くの人の心に知的障害者は「わからない」「決めれない」「意志がない」と思っているのではないのでしょうか

知的障害者への情報保障 情報を整理をする手伝い 選択 決定 そんな支援をあきらめることなく粘り強く粘り強く粘り強くお願いしたいです。

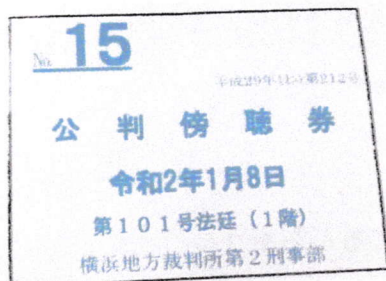
あともうひとつ、知的障害者の一人暮らし(独りぼっち生活ではなく)の制度の適用範囲が狭いです。介護者全般少ないのですが、知的障害者の介護者がこれまた少ないです。一人暮らしができません。

選んで決める、といっても選べません。知的障害者にもグループホームや一人暮らし、自分がどう暮らしていきたいのか選べるようにしてほしいです。

次号では私も行っているピープルファーストの紹介をしたいと思います。
ピープルファーストとは知的障害者の当事者団体で全国組織のものです。

お楽しみに

住田理恵



横浜地裁前での住田理恵さんと住田雅清さん

[住田理恵から見た津久井やまゆり園事件] (その2)

こんにちは～

なまえの会ニュースに今回で2回目、わたしの表現をさせてもらっていること、ありがとうございます。 私は、造形やポエムなどで、芸術活動をしています。

新たな作品として、植松くんを造形で作り始めています。

下の文章は作品とは関係ないのですが、作品を作る中で私の中から出てきた言葉です。

うえまつくん 今 あなたは どんな気持ちでいるの？

死ぬこと怖い？

恐がってもいいんだよ💖

生産性のない人が、この社会に、みんなと一緒に生きていること 社会にとって 健常者といわれている人にとって凄く意味があることなんだよ！！！！

生産性のない人が、この社会に、みんなと一緒に存在していること 社会にとって 健常者といわれている人にとって 凄く意味があることなんだよ！！！！

言葉でのコミュニケーションが難しい人 感情豊だよ！！！！

そう言われたら うえまつくん 何を思う？

そう言われたら うえまつくん 何を感じる？

生産性が低くなった人がこの社会に、みんなと一緒に生きていること 社会にとって 健常者といわれている人にとって凄く意味があることなんだよ！！！！

そう言われたら うえまつくん 何を思う？

生産性があってもオッケー💖👊

生産性がなくてもオッケー💖👊

うえまつくん 幸せだった？

うえまつくん 心 自由だった？

もっつっと 話をしたらよかったね

私の周りには 優生思想の反対側で生きている人たちがいるよ(障害者、健常者)

自分の中にある 優生思想と闘いながら生きている人たちがいるよ(障害者、健常者)

出会えてたらよかったね💖

みんなと 一緒にごはんを食べ 怒られ 遊び いっぱい話ができたらよかったね💖

前の号で言っていた、ピープルファーストのことを書きたいと思います。

ピープルファーストとは、知的障害者の当事者団体です。

全国組織です。会議をやる時の司会も知的障害者、聞いている人も知的障害者です。

もちろん“支援者”のたくさんなサポートを受けながらです。

何よりも何よりも何よりも、言いたいのは 当事者も支援者もすごーく元気です。

なんと！！！！来年の6月末ごろに兵庫で！尼崎で！全国大会をやる予定（コロナウイルスのためあくまでも仮）にしています。

現実にやれるとなったら人の手、お金が必要です。応援してもらえたら、覗きにきてもらえたら、すごく嬉しいです。



ピープルファースト

たのか、掘り下げてほしいと願った。植松死刑囚が一方的に主張する場にしたいくない。そんな思いから法廷で意見陳述に立ち、「他人が勝手に奪ってよい命なんてひとつもない」と訴えた。

だが植松死刑囚が「障害者は不幸をつくる」という考えの誤りを認めることはなかった。友人がたかくさんといったようだったが、「薄っぺらい人間関係のなかで、誰も彼のことを心配してくれる人はいなかったんじゃないの」と感じた。

裁判は終わったが、障害者への差別意識を持つ人は今もいるだろう。障害者と関わりの少ない人は、事件を忘れてしまうのではないかという不安がある。差別を少しでもなくし、誰もが落ち着いて過ごせる社会にするにはどうしたらよいのか、考え続けている。

「19人を思い浮かべて差別がちよつとでも少なくなったり、優しい気持ちになつてくれたりしたら、美帆ちゃんが喜ぶかな」と言った。

(神宮司実玲)



美帆ちゃん 風が好きだった

母親の自宅には、美帆さんが好きだった菓子やアンパンマンのフィギュアとともに、大きな遺影が置かれている。中学1年の時に撮ったお気に入りの1枚だ。

「このころはどんどん大人っぽくなって。お姉さんに見えるかもしれないけど、家では甘えん坊でした」。母親は遺影を見ながらそう言った。

中学2年生の時から施設で暮らした。やまゆり園に移ったのは事件の約4カ月前。事件2日前に会いに行くと、美帆さんは「きゃーっ」と声を上げて喜んだ。

翌週に園の納涼祭で会う予定で、「また来るね」と言っていた。あつさり別れてしまったことを、今も悔やんでいる。

美帆さんは風が吹くのが好きだった。9歳の誕生日に横浜の山下公園で、風に向かって手を回して喜んだ姿を思い出す。自宅の玄関先の赤い花が咲く季節には、赤いリュックを背負って学校に通った姿が目につく。

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で利用者19人が殺害され、職員を含む26人が重軽傷を負った事件から26日で4年になる。犠牲になった美帆さん(当時19)の母親が、初めて朝日新聞の取材に応じ、「障害者も障害者も穏やかに過ごせる社会になってほしい」と語った。

「風のように、19年の人生、私の目の前を過ぎていった。今もどこか近くにいないかな、思い出さない日はない」

事件をめぐっては11月、殺人などの罪に問われた元職員植松聖死刑囚(30)の死刑判決が確定し、に対する裁判員裁判が横浜地裁であった。初公判直前、母親はそれまで匿名だった娘の下の名前を公表した。法廷で「甲Aさん」と、記号で呼ばれることに納得がいかなかったからだ。

裁判では、植松死刑囚がなぜ障害者への差別意識を深めた

やまゆり園事件4年 母は願う 差別のない社会を



8歳で父親のあぐらに乗っている美帆さん。口の中に中指、薬指を入れるのが癖だった



中学1年生の時の美帆さん。この写真が遺影になった



19歳当時の美帆さん。遺族は「もう少し髪が伸びたら晴れ着を着て一緒に写真を撮るのが楽しみでした」と書き添えた。いずれも遺族提供

2020.7.26
朝日



新聞記事より

続支援B型)。利用者の賃金にあたる「工賃」は、敷地内にある喫茶店の売り上げなどから支払われる。3月まで工賃は月平均約2万円だったが、新型コロナによる売り上げ減少の影響で、4月は約1万5千円、5月は約9千円と半分まで減り、6月は約1万4千円だった。

「ずっと家に1人なのは不安。同年代の仲間と話すのが楽しみ」。事業所が利用自粛を呼びかけた4〜5月も、週5日、午前中だけ通った。

「夢工房ねむの木」(広島県三次市)も「かがやけ」と同じタイプの事業所で、レストラン運営や弁当の製造販売などを行っている。精神障害のある舛田玉緒さん(52)の工賃は、月約2万円。3分の2を母親との生活費、残りを好きなシヤンプーの購入などにあてる。工賃は時給で「通っていくらの仕事。生活に大事な収入です」。さらに「社会に役立つことが喜び」とも。事業所は休止していたレストランを6月に再開したが、利用は元には戻らず、今年度は赤字になる

見込みだという。担当者は「わずかな工賃を頼りにしている障害者は多く、工賃を保障する抜本的な対策を国は考えてほしい」と訴える。

障害者が利用する事業所の全国組織「きょうせん」(代表理事 三浦重幸)のある人の工賃について、個別に補償するよう厚生労働省に要望した。

事業所へさらなる支援が課題

新型コロナに関する国の第2次補正予算には、新型コロナにより生産活動の収入が減少した就労継続支援事業所への支援策が盛り込まれた。一定の条件を満たした事業所に最大50万円を補助する。ただ、家賃などの固定費や販路拡大に必要な費用など生産活動を後押しする補助金なので、「工賃や賃金にあてることはできない」(厚生労働省)という。

埼玉県立大の朝日雅也教授(障害者福祉)は「事業者が在宅勤務に対応していなかったり、工賃が乏しかったり、障害者の働く仕組みの脆弱さが新型コロナで浮き彫

2020. 8. 3
朝日新聞



りになった。障害者にとって、働くことは重要な社会参加の手立。働く場を守らないといけない」と指摘する。

社会参加の点では、障害者の外出を支える基盤にも危うさが生じている。

「ライフサポートゆたか」(名古屋市中)では、障害者の外出にヘルパーが付きそう支援が3月は予定の約130件のうち90件がキャンセル。障害福祉サービス制度に基づき報酬が月平均を約150万円下回った影響で、2019年度の決算は赤字になった。今治信一郎所長は「事業が続けられない

と、障害者の暮らしを守れない」と話す。

「きょうせん」が、事業所の報酬について昨年4月と今年4月で変化があったかをきいたアンケートでは、外出に関わる支援と居宅介護を行う23事業所のうち9割が減収。減収額は平均104万5300円だった。

こうした状況について、朝日教授は「サービスは障害者の生活に必要な不可欠で、一時的な需要減で事業者が淘汰されていいものではない。国による収入保障や、事業所間で業務を融通し合って減収を防ぐことも必要だ」と語る。

みんなで考える人権教育

20

西宮の同和教育の話を続けます。



1. 西宮市同和教育基本方針

同和教育の本質は、人権尊重の精神に徹し、部落差別の絶滅を中心課題として、あらゆる差別の解消に取り組む意欲と能力をもった人間を育てることにある。すなわち、差別をしない、差別を許さない、真に民主的な人間を形成することである。

同和教育は、人間教育の原点であり、民主主義の根幹である。したがって、「西宮の教育は、同和教育に始まって同和教育に終わる」という認識のうえに、すべての教育施設、すべての家庭、すべての地域社会において、同和教育の推進に努める。

1971 年、今から 50 年前に作られたこの基本方針の下で西宮の同和教育は進められてきましたし、今も、全学校・市をあげて取り組みがなされています。

ここ数年、西同教進路保障分科会にかかわり、現場の先生方と共に進路保障の課題を確かめ、取り組む方向を検討してきました。また、学校の校内研修会に招かれたときには、芦原地区とかかわった同和教育の取り組みを振り返った話をしてきました。阪同教・兵人教・全同教にも参加していますが、西宮で原則的な同和教育が続けられていて心強く感じています。

① 基本方針のできた背景

戦後の学制改革で中学が義務教育となりました。芦原地区の孤立化を防ぎ、他地域との交流を求めて、芦原に中学校を建設しないで、芦原小学校卒業生は 5 中学へ分散して進学させました。いろいろな資料に目を通すと、だれもが明確にはされていませんが、部落差別が重くのしかかっていることが読み取れます。

周辺地域の子どもの芦原中学入学が難しい。芦原小の卒業生全員を一つの学校で受け入れるのは反対が多い。

部落差別解消を目指して、分散進学と説明されていますが、小人数入学の心の負担・通学時間や通学費用など芦原地区に大きな負担をかけてきました。子どもを受け入れた 5 中学とその地域で部落差別解消の同和教育が取り組まれるまでには時間がかかりました。1965 年同対審や特別措置法後の 1970 年代からです。

2 教育正常化運動 ランドセル廃止

1960 年代日本経済が飛躍的に成長をとげ、高度経済成長期と言われています。経済的に余裕ができ、子どもの高校進学が急伸び、西宮市内平均 60~70%となりました。受験戦争がはじまりました。西宮では小学生の私立中進学も大きな課題でした。私立中進学率の高い学校ほど良い学校・私立進学者の多いクラスほど良い先生という評価を受ける。学校や教員の序列化が保護者の間で広がってきました。また、学校を早退したり、欠席して、学習塾に通ったり、家庭教師付きの勉強が横行するようになりました。

教育正常化運動は、ランドセル廃止、ロッカー設置つまり「学用品学校常置体制」は、(1) 学校と家庭との正しい分業を通じて、教師と親とが本当の協力体制を確立すること。(2) 真の教育の機会均等、すなわち「校門の中の絶対的平等」の実現をはかり、原則として家庭の経済力や学校的な教育力をあてにしない体制を固めること。して、ひいては「別勉体制」によるばく大な父兄負担の軽減をはかること。(3) 「白熱の授業」と、「自主的な家庭学習」と、「こどもらしい生活」とにより、学力の向上と体力の増進と、気力の充実をはかること。以上、3つをおもなねらいとする(矢内教育委員長・1967 年 市議会での説明分から)

西宮市における教育正常化運動の展開に当たり、本講座の主題である「同和教育」というものをどのように考え、それをいかに位置づけているのか、という点にふれておきたいと思います。それは、本市における合いことば「西宮市の教育は同和教育に始まって同和教育に終わる」の中に、すべてが尽くされていると思います。先ほど来、申し述べてきた通り、教育というものは人間尊重を基盤とするところの最も人間的で最も科学的な営みでなくてはならないのであります。では差別というものはいったい何か。それは人間蔑視を基盤とする最も非人間的で最も非科学的な社会現象にほかなりません。したがって、人間尊重に基づく科学的・人間的な教育というものは、人間蔑視に基づく非科学的・非人間的な同和問題との対決なくして絶対に成立しないのであります。

すなわち、現代差別の集中的表現である部落差別を中心課題とするところの「差別をしない、差別を許さない」人間形成をめざす同和教育に、民主教育の、あるいは本市における教育正常化運動の、原点と同時に究極の目標を見出だすのであります。……

当面の課題の中で……市内の高校進学率 85%、同和地区は 45%

(1967 年 第 16 回部落問題夏期講座 刀祢館教育長の報告から)

西宮の基本方針は、教育正常化運動の中で考えられたと思います。芦原の 50 年代の新制中学工区問題・不就学生・夜間中学・郊外学級・西同教結成などの取り組みを踏まえた方針の説明はないものの、親の経済格差が子どもの進路をつくる、学校が序列主義を陥ることを克服するため、人間尊重の民主教育の推進を図り、西宮の教育の根幹に同和教育を据えたものです。

次回は 1967 年の第 16 回部落問題夏期講座報告を取り上げます。



思い出は映画とともに

ビデオ名画座

蛍とともに思い出す映画

梅田スカイビルの話題の一つに「蛍」がある。「中自然の森」と呼ぶガーデンには水辺があり、季節になると蛍が舞う。五十匹にも満たない蛍だが、宙に舞う姿に観客が酔う。

少年時代、闇(やみ)に乱舞する蛍に私は心酔してきた。しかし、最近では、その幻想のシーンに日常生活の中で出会えることは皆無である。だが六月になる

監督 須川 栄三
主演 三國連太郎
坂詰 貴之

蛍 川



乱舞する蛍の光に
少年と少女は包まれた

と蛍を求めて各地を歩く。最近見た映画、韓国の「ラストストーリー」の中で、美しい蛍を見た。近いうちに「ほたるの星」(菅原浩志監督)が上映されるとい。だが、私にとっては、蛍は宮本輝原作の「蛍川」(ほとるがわ)だ。

一九七七年に宮本輝は、「泥の河」で太宰治賞を、「蛍川」で芥川賞を同じ年に二作品受賞を果たした。新人としては快挙であり、注目を集めた。そして二作品とも映画化された。小栗康平のデビュー作として登場した「泥の河」は、いろいろな映画祭で数多くの賞を手にした。名作として、今日も話題にされている作品だ。安治川の泥の異臭がただようような風景と、火をつけられた力二が燃えつきながら動く様を見つめる主人公の子ども。そんなシーンがすぐに思い出せるだろう。

だが「蛍川」の監督、須川栄三のことについては現在話題にもされないし、川本三郎(評論家)が出版した「映画監督ベスト100」・「日本編」には名前すら登場しない。「蛍川」が「泥の河」より作品として、決して劣るわけではない。宮本輝の世界を十分に描ききっていると思うのだが。

「蛍川」は中学三年生の少年のもんもんとする思春期を描いている。舞台は「泥の河」の大阪でなく、富山。昭和三十三年三月末。父(三國連太郎)は、北陸で有数の商人だったが、子どもができなかった妻(奈良岡朋子)を捨て、芸者(十朱幸代)と再婚していた。父が五十二歳の時に授かった子どもが竜夫だ。だがその父もやがて破産し、一家の今の生活は苦しかった。

竜夫が、かかえた進学問題。幼なじみの少女への思慕。少女と女に高まっていくエロチズム。父との会話の毛、生えてしまったか？

ちょっと父さんに見せてくれ。そして親しい学友の自殺。脳卒中を起こした父の死。父の亡き後の、父の前妻との出会いと別離……

父が語っていた、富山の民話のような蛍の物語。四月に大雪が降った年には、常願寺川の上流にあたるいたち川に、数百万の蛍が舞い、その蛍と出会うことができた男と女は結ばれるというのだ。

立山の雪解けの水を受けければ、想像を絶するほど多くの蛍が発生するように思えるのだ。もちろん「蛍川」のような蛍に出会ったことではない。だが、蛍と出会うたびに、この映画の中の、富山で生きた父と母と前妻、大人たちの愛憎、そして思春期の少年・少女たちのことを雪の舞いの映像とともに思い出す。(彦)



サヤメンバー日々のスケッチ



2020 年の年明けは穏やかでした。メンバーのみんなも、元気に新しい年のスタートができたのですが・・・

◎福祉作品展に行きました。 2020 年 2 月 4 日 (火) 西宮市民ギャラリー

今年はバザーだけではなく、メンバーみんなが参加した作品 (11 月のアールブリュット展に出したものです。) を出品しました。11 月からの新メンバーの S さんも自分で作った作品を出品できみんなそろいました。入場者も多く、サヤの製品もたくさん売れ、いいスタートだったのですが...



◎お花見に行きました。 2020 年 4 月 7 日 (火) 春風公園

毎年恒例となった、避難訓練をかねて春風公園まで歩きました。緊急事態宣言直前であり、公園でおやつを食べることも自粛しました。でも桜はきれいでした。みんなスムーズに歩いて避難訓練としてはよかったです。

◎お楽しみ映画上映会をしました。 2020 年 8 月 7 日 サヤ

「音楽の集い」が中止、せめてのお楽しみに、映画上映会をしました。『鎌倉ものがたり』をみました。



◎新型コロナウイルス感染症 緊急事態宣言下の作業所の様子

作業所としては、開けていることができたので、基本的な生活は守れました。電車で通勤してくるメンバーには、密をさけ、1 週間に一度の出所にし「在宅」で仕事をしてもらいました。また「在宅」で過ごせる人、在宅を希望の人は、家庭の状況にあわせて、在宅日を設け家で仕事をしてもらいました。作業所では、マスク、手洗い、消毒、自分で管理できないメンバーにはスタッフが声をかけ確認をしました。家で仕事をするということで、いいこともありました。家庭でも、自分達で 時間を守って、刺しゅうをしている姿があり、おうちの方が驚かれたという話を聞きました。また普段ならスタッフを呼んで手伝ってもらおうことも、家では自分でしようと試み、できるようになったということもありました。お家の方で「作業所では今みんな仕事をしているんだから、家でもしっかりね」と声かけをもらったという声も聞きました。みんなちゃんとしてるなあと感心しました。



福祉作品展



お花見



★あとかき ぶつぶつ...

昨年の 12 月以来の「あとかきぶつぶつ」です。4 月に出す予定のニュースが、新型コロナウイルス感染症の流行のため、発行の目処がたたず、結局 8 月になってしまいました。ニュースがなく、コロナの流行でなまえの会作業所はどうしているだろうと心配をおかけしたのではないのでしょうか。申し訳ありませんでした。ニュース本編でも書きましたが、作業所とメンバー自体は元気に動いています。まあとりあえずこれが「一番」なのですが。

2020 年の春から私たちはコロナ禍という渦に巻き込まれています。いままで経験したことがない夏を今迎えています。この厳しい状況でも 7 月には豪雨に見舞われ、容赦なく自然災害は起こりました。8 月の猛暑、これからは台風。恐れと不安はつのるばかりです。

そして、このコロナ禍の 2020 年の夏は、戦後 75 年、相模原事件 4 年という節目の夏でもあります。今年のヒロシマ、ナガサキ原爆の日平和式典はコロナ禍の影響を大きく受けて、規模を縮小せざるを得ませんでした。そのことで平和への思いが縮小することはないと思いますがやはり危機感を感じます。「黒い雨」訴訟への国や広島県、市の控訴も「何故」という疑問が、この状況で霞んでしまいそうです。もうひとつ相模原事件は 4 年目となり、3 月には植松聖被告が、自ら控訴を取り下げ、「死刑」が確定しました。彼自身自ら幕引きをさせてはいけなく感じます。コロナに隠れてしまわないように、見続けなくてはならないことです。このことについては、裁判の傍聴に出かけた住田理恵さんが思いを語ってくれました。ぜひ読んでください。

そして最後にまたコロナウイルスのことを書きます。このウイルスは人の営みを否定し人を分断する、大きく言えば「文化」を否定するものです。自分に置き換えれば「好きなもの、好きな事」がダメと言われることです。映画、美術館、演劇、コンサート、ライブ、旅、スポーツ、イベント、飲食、討論、ショッピング、すべて否定です。自分には行かなくても、新宿や、大阪ミナミの混沌とした世界も人の営みであり、「文化」であると思います。私自身は、プラーベートな時間であることが、緊急事態宣言下でほとんどなくなってしまいました。皆さんもそうかも知れませんが、気候のいい時は歩いてばかりいました。長期化をまぬがれないなら、ほんとうに閉塞感に囚われてしまいます。自分は直接の表現者ではないけど「表現の場」が失われることは、ある意味「生き方」を否定されることです。うーん、どうすればいいのか、おさまるのを待つしかないのか、答えは今のところ出てきません。

ギャラリー手作りの店サヤ (なまえの会作業所)

〒663-8211 西宮市今津山中町 7-22 tel・fax 0798-34-2039

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0016 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階

編集人 NPO 法人 Namae 西宮市今津山中町 7-22

